※令和４年度以降入学生用

学校番号	1204

令和５年度　情報科

教科	情報	科目	表計算演習Ⅰ	単位数	２単位	年次	２年次
使用教科書	なし						
副教材等	情報処理技能検定試験 表計算 模擬問題集　２・準２級編（日本情報処理検定協会） 自作プリント						

１　担当者からのメッセージ（学習方法等）

- 表計算ソフトウェアの利用を通して、１年次「情報Ⅰ」での既習内容よりも発展的な知識理解と技術の習得を目指します。身に付けた知識と技術を用いて、自ら考え、判断し、表現する学習を行います。
- 授業は実習形式を中心に行い、授業の最後には何を学び身に付けたのかの振り返りを行います。課題への取り組み状況、実習作品、定期考査で評価します。日々の取り組みが大切です。
- 日本情報処理検定協会「情報処理技能検定試験 表計算」などの内容を扱いますので、資格取得にもつながります。

２　学習の到達目標

【知識及び技能】
・表計算ソフトウェアを用いた情報の整理や加工などの基本的な知識を身につけ、有効な利用方法を学ぶ中で、適切な表やグラフの作成技能を身に付けている。
【思考力、判断力、表現力等】
・表計算ソフトウェアを活用して、目的に応じたデータの整理や処理の方法を思考し判断することができる。自ら考え、工夫を行うとともに、目的に応じた表やグラフを効果的に用いて表現することができる。
【学びに向かう力、人間性等】
・情報処理技能検定試験の実践的な課題に積極的に取り組み、自ら評価し改善しようとしたり、問題解決に向けて主体的に実践しようとしている。

３　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技能	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	• 表計算ソフトを活用するための基本的な知識や技能を身に付けている。 • 関数を用いた効果的なデータ活用、情報デザインの考え方に基づいたグラフの作成について理解している。	• 表計算ソフトを活用して適切なデータの整理や処理の方法について考えている。 • 目的に合わせた適切なグラフやデザインについて考えている。	• 実践的・体験的な学習活動を通して、情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、問題の解決に向かって主体的に取り組もうとしている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
1学期	表計算ソフトウェアの基本的な利用	表計算ソフトウェアの基本操作 テンキーを使用した文字入力について	a:表計算ソフトウェアの基本操作が身に付いている。 c:タイピング能力向上のために自ら評価し改善しようとしている。	ワークシート 実習課題 実技試験	ワークシート 実習課題 実技試験	授業観察 実習課題 振り返り
		表計算検定 4･3級	a:四則演算や基本的な関数を使ったデータ処理について理解している。 b:データに応じて表示形式やレイアウトを適切に判断することができる。 c:表計算ソフトウェアを利用した実習について、意欲的に粘り強く取り組もうとしている。			
2学期	表計算ソフトウェアの応用的な利用	表計算検定 準2･2級	a:応用的な関数や多重判断文を使ったデータ処理について理解している。 b:データに応じた表示形式やレイアウトを適切に判断することができる。 c:表計算ソフトウェアを利用した実習について、意欲的に粘り強く取り組もうとしている。	ワークシート 実習課題 実技試験	ワークシート 実習課題 実技試験	授業観察 実習課題 振り返り
		情報の収集	a:検索エンジンやアンケートなどを利用し、様々な情報から必要な情報を収集する技能を身に付けている。 b:収集した情報を整理し、情報を効果的に分析するための適切な資料を作成し、考察することができる。 c:関心・意欲をもって、収集した情報の整理・分析などを行い、主体的に取り組もうとしている。			
3学期	情報の分析と活用	グラフの作成と分析	a:表計算ソフトウェアを活用して統計処理などを行い、伝えたい情報にあった適切なグラフを作成できる技能を身に付けている。 b:情報を効果的に分析するためにどのような形のグラフを利用すべきか説明することができる。 c:収集したデータなどを表計算ソフトウェアを利用して統計処理を行い、グラフ化する活動に対し、意欲的に取り組もうとしている。	ワークシート 実習課題 実技試験	ワークシート 実習課題 実技試験	授業観察 実習課題 振り返り

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度